

新技術・情報名	ニホンナシの自発休眠完了時期と低温要求時間		
実施場所	三重県農業技術センター 園芸部	分類	㊟

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

昭和60年度、昭和61年度の2カ年、ニホンナシ主要品種の自発休眠期間と温度感応の相違を明らかにするという目的で、ナシの切枝を10~30℃に設定したガラス室で、水さししたところ、ニホンナシの自発休眠完了時期と自発休眠完了のための低温要求時間が明らかとなった。

高馬(信州大、1953年)は「切枝を温室に入れて2週間以内に生長しない場合を強固な休眠状態にある」と考え、ニホンナシで1月中旬に自発休眠が完了し、自発休眠完了に必要な低温要求量は、八雲、廿世紀、新高(京都)で7.2℃以下の時間数が、1344時間としている。

今回の結果は、自発休眠完了を「2週間以内に生長」ということではなく、大半の芽が発芽し開花する時期を自発休眠完了と考え、検討したものである。

自発休眠完了時期は、幸水で12月下旬ないし1月上旬、豊水で12月下旬、長十郎で12月下旬ないし1月上旬であった。豊水は自発休眠期間と考えられる間にも、先端の芽は発芽し、自発休眠は浅いように思われた。

自発休眠完了のための低温要求時間は、幸水で、昭和60年度は550時間、昭和61年度は、464時間であり、2カ年の結果から、500時間程度で自発休眠は完了すると考えられた。

2) 技術・情報の適用効果

加温ハウスのビニール被覆時期の決定、初秋の台風等による落葉後の不時開花の予測等に利用できる。

3) 適用範囲

ニホンナシ栽培地帯

4) 普及指導上の留意点: 特記事項なし

2. 具体的データ

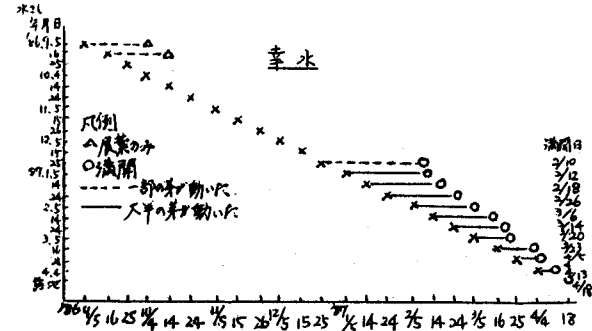


図1. 幸水水さし時期と満開日 (1986.9~1987.4)

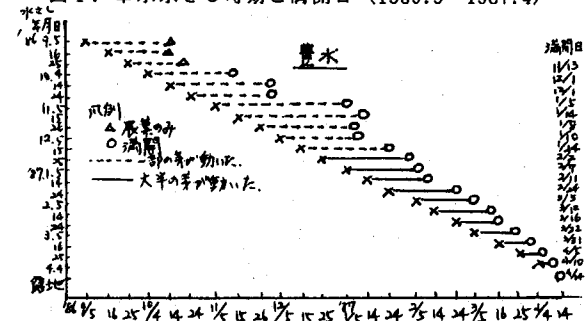


図2. 豊水水さし時期と満開日 (1986.9~1987.4)

表1. 自発休眠完了までの低温時間

	昭和60年度	昭和61年度
5.0℃以下	293 hrs	201hrs
7.2℃以下	550	464
10.0℃以下	859	868

3. その他特記事項

研究課題名: ナシの簡易被覆栽培と植物調節剤利用による熟期促進技術の確立

ニホンナシの生育予測法の策定と着果管理及び収穫適期判定法の確立

期 間: 昭和60年、昭和61年

予算区分: 総合助成、地域重要新技術